

社会資本総合整備計画(第2回変更)

けん と 県都にふさわしい ちゅうしん し が い ち 中心市街地の みりよく しんてん 魅力が伸展するまちづくり

令和 2年 2月

おおい た けん おおい た し
大分県大分市

社会資本総合整備計画

平成31年 1月23日

計画の名称	県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり			重点計画の該当
計画の期間	平成26年度～平成32年度（7年間）	交付対象	大分県 大分市	
計画の目標				

- 大目標 官民連携により大分市中心部の地域資源の活用を行い地域の稼ぐ力の向上を目指す
 - 目標 1 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する
 - 目標 2 歴史文化資源を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う
 - 目標 3 中心市街地において回遊性の向上や賑わいの創出を図り地域経済の向上を図る

計画の成果目標（定量的指標）

- 【空き店舗率】
中心市街地における「空き店舗率」を11.1%（H28）から6.8%（H32）に向上
- 【歩行者通行量】
中心市街地における「歩行者通行量（土、日曜日：35地点）」を343,653人（H28）から352,150人（H32）に向上
- 【小売業の年間商品販売額】
大分市全域における「小売業の年間商品販売額」を4,863億円（H26）から5,000億円（H32）に向上

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

	当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考
	(H29)	-	(H32)	
【空き店舗率】 3ヶ月毎に調査している「大分市空き店舗調査」に基づく空き店舗率	11.1%	-	6.8%	※中間目標は任意
【歩行者通行量】 毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」の土、日曜日の35地点の合計通行量	343,653人	-	352,150人	
【小売業の年間商品販売額】 経済センサス活動調査に基づいた小売業の年間商品販売額	4,863億円	-	5,000億円	

全体事業費	合計 (A+B+C+D)	2,286.1百万円	A	2,286.1百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.0%
-------	-----------------	------------	---	------------	---	------	---	------	---	------	-----------------------------	------

交付対象事業

A1 基幹事業（市街地整備）										全体事業費 (百万円)	備考							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）									
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32			
A-1	都市再生	一般	大分市	直接	大分市	大分市中心市街地地区 都市再生整備事業	高質空間形成施設 他 153ha	大分市									1,438.6	
A-2	都市再生	一般	大分市	直接	大分市	大友氏遺跡歴史公園周辺地区 都市再生整備事業	地域生活基盤施設 他 239.5ha	大分市									847.5	
合計																2,286.1		

B 関連社会資本整備事業										全体事業費 (百万円)	備考						
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）								
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
合計																0.0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

C 効果促進事業										全体事業費 (百万円)	備考						
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）								
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
合計																0.0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

D 社会資本整備円滑化地積整備事業										全体事業費 (百万円)	備考						
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）								
									0	0	0	0	0	0	0		
合計																0.0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
配分額 (a)	134	42	164	66	328		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	134	42	164	66	328		
前年度からの繰越額 (d)	0	53	0	93	47		
支払済額 (e)	81	95	71	112	163		
翌年度繰越額 (f)	53	0	93	47	212		
うち未契約繰越額 (g)	32	0	67	16	24		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	23.9%	0.0%	40.9%	10.1%	6.4%		
未契約繰越+不用率が10%を超えている場合その理由	通行規制に伴う地元関係者との調整に不測日数を要したため	—	通行規制に伴う地元関係者との調整に不測日数を要したため	計画の協議・調整に不測の日数を要したため	—		

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費	
緑化施設等	中央住吉1号線修景	大分市	L=330m、W=10m 自然石舗装、街路灯	312.3			312.3	
緑化施設等	中央住吉2号線修景	大分市	L=320m、W=8m 自然石舗装、街路灯	272.0			272.0	
緑化施設等	中央町南春日線 シェルター設置	大分市	L=40m、W=4m H=4.5m	54.3	6.3		48.0	
緑化施設等	中央町南春日線 シェルター設置	大分市	L=40m、W=4m H=4.5m	60.0	10.0	10.0	40.0	
緑化施設等	大分城址公園 修景	大分市	A=6,600㎡	60.0	5.0		55.0	
緑化施設等	大友氏遺跡誘導施設 設置	大分市		15.0			15.0	
合計				345.0	6.3	0.0	632.3	

・「事業主体」欄には、事業の施行者を記入。(間接交付の場合は、交付金事業者ではなく、「第三セクター」等の施行者を記入。)

・「電線類地下埋設施設」は、備考欄に地中化の方式(自治体管路等)を記入。

・「緑化施設等」及び「電線類地下埋設」について、道路区域内で整備する場合は、備考欄に道路の都市計画決定の有無、道路の改築を伴うか否かを記入。

・「緑化施設等」について、施設名欄、概要欄に整備内容を具体的に記入。

都市再生整備計画(第4回変更)

おおとも し い せきれき し こう えん しゅう へん ち く
大友氏遺跡歴史公園周辺地区

おおいた おおいた
大分県 大分市

令和 2年 2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大友氏遺跡歴史公園周辺地区	面積	239.5 ha
計画期間	平成 29 年度 ~ 平成 32 年度	交付期間	平成 29 年度 ~ 平成 32 年度				

目標

- 大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり
 - 目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う
 - 目標② 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する
 - 目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、インバウンドに対応した歴史文化資源の顕在化を行うことで内外の認知度を向上を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・大分市は、奈良時代に国府がおかれて以来、1300年続く県都であるという歴史的特色があり、古代～中世～近世に至るまで、政治や文化の中心地は、上野台地を起点に反時計回りに移動している点を特徴とする。中でも戦国時代の大分を治めた大友氏の館が所在する大友氏遺跡を中心としたその周辺は、歴史的な資源にめぐまれた場所であり、現代のまちの中に様々な時代の遺跡が重なり合っており、当時の土地利用の痕跡も良好に遺されている。その後、江戸時代の府内城の築城と城下町の形成を経て、現在の大分市の文化的都市基盤の礎となった場所であると位置付けられている。
- ・平成8年にはじまる市内中心部における大友氏関連遺跡の発掘調査・研究の結果、大友氏遺跡の価値が次第に明らかになり、戦国時代の豊後府内や大友宗麟の人物像に対する市民の関心も高まりつつある。大友氏遺跡のあり方については、魅力ある地域づくりや観光活用を視野に入れるなど、本市の各種計画においてにも重視されている。平成14年度に「大友遺跡検討委員会」を設置し、大友氏遺跡の保存整備や遺跡を活用したまちづくりに関して総合的な検討をはじめ、平成16年の「大友氏遺跡を活かしたまちづくり検討委員会」では、大友氏遺跡の保存・整備・活用について具体的な且つ実効的な検討を行った。同年度に策定された「都市計画マスタープラン」では、大友氏遺跡一帯を「歴史文化観光拠点」と位置づけている。
- ・平成18年3月に大友氏遺跡は地域の歴史と文化を知り、魅力的で個性あふれる県都大分市の「顔」に欠かせない資産であるという認識のもと「大友氏館跡歴史公園」として都市計画公園決定を行い、平成20年度には大友氏遺跡の本格的整備を実施するまでの公開活用を行う施設として「大友氏遺跡体験学習館」を開館し、戦国時代において世界的にも知られた国際貿易都市「豊後府内」について紹介している。
- ・平成25年3月には、市制100年を機に、大友宗麟をテーマに大分市の歴史や魅力を情報発信する「大友宗麟プロモーション」事業を展開しているほか、平成25年8月には、市制100年を期に開催された「南蛮文化国際フォーラム」において、郷土の戦国大名・大友宗麟公の功績と我が国でいち早く南蛮文化が開いた豊後府内を誇りとし、魅力に満ちたふささと大分を創造する決意を「南蛮文化発祥都市宣言」として提示され、大分市の新たな魅力として発信するに至っている。
- ・平成26年3月に策定した史跡大友氏遺跡保存管理計画においても整備基本構想の項目があり、歴史公園としての実現に向けた長期的な指針を定め、平成27年12月には、具体的な整備の内容を示した「史跡大友氏遺跡整備基本計画(第1期)」を策定し、大友氏遺跡歴史公園整備に向け、大友氏館跡庭園部の整備に着手している。そのような中、平成31年10月にはラグビーワールドカップが大分市で開催され、国内外から多くの来街者が大友氏遺跡歴史公園における文化財の発掘状況や庭園部の整備状況を知ることは、大分市が歴史と文化を活かしたまちづくりを行っていることを周知する機会と捉えており、そのためには大分駅からの動線整備や周知が必要である。
- ・ラグビーワールドカップにより周知された大分市の歴史と文化を活かしたまちづくりが、今後も更に周知され、利活用されるために、回遊ルートの更なる整備や、公園の魅力を高める周辺施設の整備など、周囲に点在する歴史・文化資源を含めた継続的かつ幅の広い事業や周知が求められており、そのことにより地区の活性化を図る必要がある。

課題

①(回遊ネットワークづくり)
大分市中心部に所在する歴史・文化遺産を巡る観光ルート整備が不十分であり、また多くの人が訪れる芸術・文化施設や大分駅周辺部とのネットワークが形成されておらず、大友氏遺跡に代表される計画対象範囲に人を呼び込めていない。これらの遺産・施設との回遊性を高めるルート整備が必要である。

②(歴史文化資源の活用)
大分県を訪れる外国人観光客の増加や、東九州道の開通や大分駅周辺の再開発等により大分市中心部における交流人口が増加する中、各時代の歴史資源が顕在化できておらず、大分市が歴史・文化に恵まれた「まち」であることを内外に周知できていない。

③(歴史文化資源をいかしたまちづくり)
歴史・文化観光拠点としての拠点となる施設整備ができておらず歴史・文化を活かした個性と魅力あるまちづくりができていない。

④(ラグビーワールドカップの機会を活かすための整備)
ラグビーワールドカップによる来街者が大友氏遺跡を訪れる回遊ルート整備、周知を行う施設や手段が不十分。

将来ビジョン(中長期)

「史跡大友氏遺跡整備基本計画」に基づき、大友氏遺跡歴史公園を整備活用の基本目標「南蛮文化発祥都市おおいの創造・体感・発信拠点」として具現化し、歴史文化観光拠点として歴史公園や学習交流施設等の整備を行う。また、豊富な歴史・文化資源を地域住民や各種の市民団体と協働して発信していくことで、市民の誇りや市民全体での歴史・文化資源を活かしたまちづくり意識を醸成する。県都大分ならではの古代から近世までの重層的な歴史空間が体感できる歴史・文化の薫りがたただよ、個性と魅力あふれるまちづくりの実現をめざす。

目標を定量化する指標

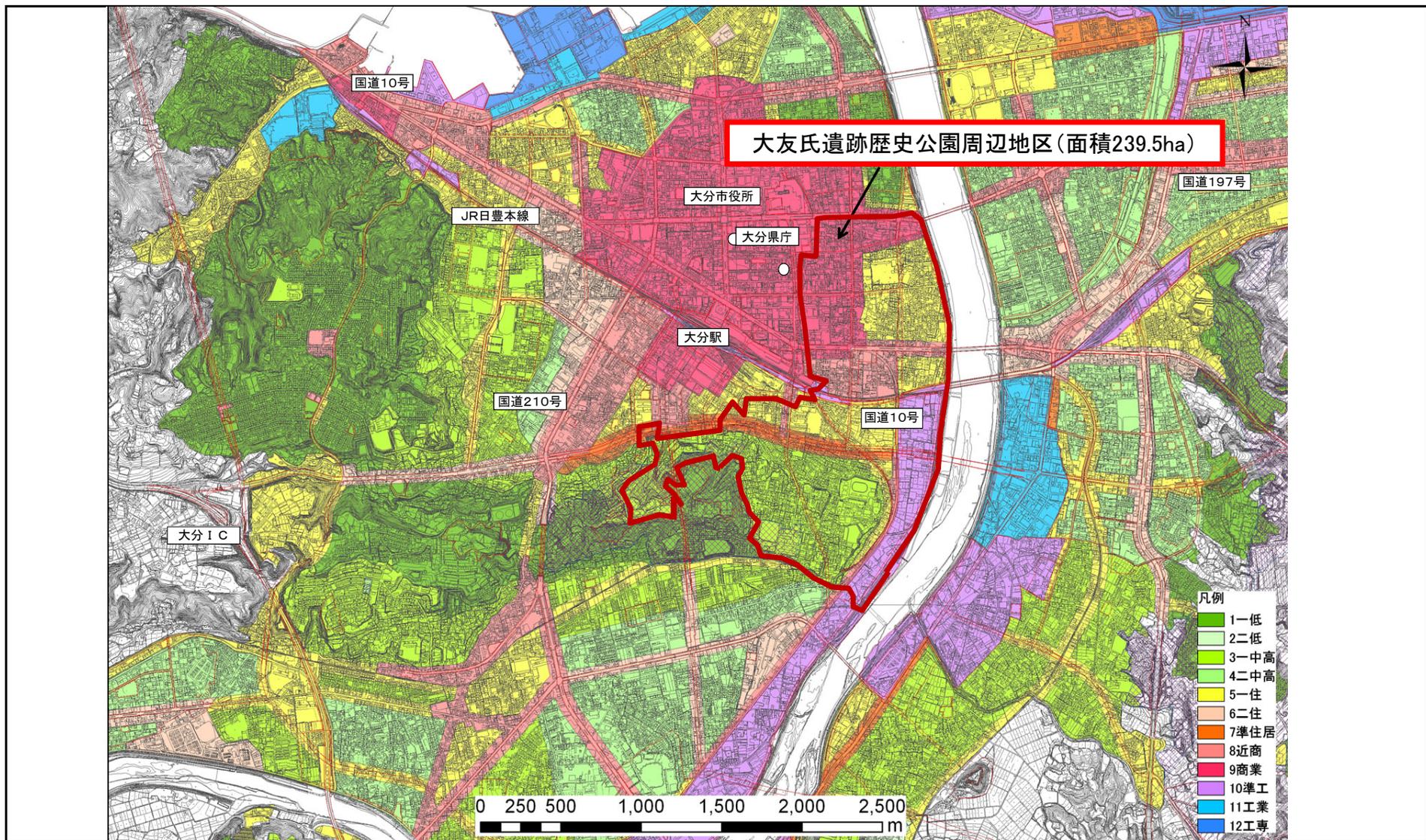
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
					基準年度	目標年度
大友氏遺跡への来場者数	人/年	大友氏遺跡内に所在する大友氏遺跡関連施設への来館者数や、関連イベントへの参加人数、大友氏遺跡全体を訪れる観光客・来訪者の人数	目標①・②の指標として用いる。大友氏遺跡歴史公園内に歴史・文化情報を発信する拠点施設を整備するとともに、対象エリア内の道路整備や道路修景を行うことで、公園までの利便性を高め、大友氏遺跡への来場者数を増やす。現在大友氏遺跡体験学習館来館者は9,000人代で推移していることから、計画最終年度には18,000人に増やすことを目標とする。	9,149人	平成26年度	18,450人 令和2年度
大友氏遺跡歴史公園周辺地区観光ガイド依頼件数	件/年	歴史散歩コースや計画対象地でのガイド案内件数	目標②・③の指標として用いる。歴史文化観光拠点としての施設整備を行い魅力の発信を行うと共に、来訪者をもてなす歴史文化ガイドを養成し、事業対象地の観光ガイド件数を増やすことを目標とする。事業対象地では観光課による観光ガイド案内が行われている。ガイド依頼件数についてはH26・27年度2ヶ年の集計があり、件数が増加したH27年度を従前値とする。計画最終年度には100件に増やすことを目標とする。	20件	平成27年度	100件 令和2年度
大友氏に関する認知度	%	全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートによる大友宗麟の人物像や業績に対する認知度の割合	目標③の指標として用いる。大友宗麟の認知を指標に、郷土に魅力を感じ愛着を持つ人の増加を促し、大分市中心部における歴史文化資源を活かしたまちづくり意識を醸成する。平成27年に実施した全市民から無作為に抽出した2,000人を対象としたアンケートにおいて「大友宗麟の名前を聞いたことがある」53%「人物像や業績を知っている」44.3%であったことから、大友宗麟の業績、人物像までの認知度を60%まで高めることを目標とする。	44.30%	平成27年度	60% 令和2年度
歩行者通行量	人	毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」の土、日曜日の35地点の合計通行量	中心市街地が持つ産業、人的資源を活かし、既存商店街の活性化、個店の魅力向上を図り、まちなか商業の活性化を目指す。	343,653人	H28	352,150人 令和2年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(目標1 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地からの計画対象地へのアクセス強化を図る ○歴史・文化遺産を巡る史跡案内ルート整備と歴史・文化資源の顕在化を行う ○ラグビーワールドカップまでに中心市街地からの動線整備を行い、ラグビーワールドカップ後にも、回遊ルートの更なる整備を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■中島錦町線修景整備 ■鉄道残存敷整備 ■上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置 ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置 ■芸短周辺の歩道照明整備 ■市道上野2号線歩道改築 ■久大本線鉄道残存敷多目的広場整備 □上野歴史散歩道散策ガイドマップ □サイクルステーション整備
<p>整備方針2(目標2 歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史文化観光拠点となる仕掛けづくりとイベントによる賑わい促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置 ■久大本線鉄道残存敷多目的広場整備 □大友氏館庭園整備見学ツアー □大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
<p>整備方針3(目標3 地域資源を活かす人材の育成や歴史文化資源の顕在化による歴史文化情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民から人材を募り歴史文化を発信できる人材を育成する ○歴史文化資源情報の顕在化を行い周知を図る ○ラグビーワールドカップを契機として訪れる来街者に周知を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■上野歴史散歩道周辺史跡案内サイン設置 □上野歴史散歩道散策ガイドマップ □大友氏館庭園整備見学ツアー □地域資源活用人材育成事業 □大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
事業実施における特記事項	
<p>本計画を進めるにあたり、計画対象地に残る多様な歴史・文化資源、祭礼を元に大友氏遺跡歴史公園を重点地区とした「歴史的風致維持向上計画」の策定を検討しています。</p> <p>【官民連携体制】 ○大分市中心市街地文化プログラム推進事業:文化団体、経済同友会、芸術文化短期大学、中心市街地まちづくりに関わる団体などとの連携により、大分市の中心部の空店舗や空きスペースを活用した芸術作品の制作・展示と、既存の文化・芸術資源(屋外彫刻、磯崎建築、パブリックアート作品等)を活用したまちなかアートツアーの実施</p> <p>【政策間連携体制】 ○大分市中心市街地の都市機能の増進や経済活力の向上、賑わいの創出などを総合的に推進するために、国土交通省や経済産業省、大分県、本市など多様な主体から構成された「中心市街地活性化協議会」を通じて、庁内外において、第33回国民文化祭や第18回全国障害者芸術文化祭開催事業、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック推進事業などと横断的に連携を図る</p> <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】 ○大友氏遺跡歴史公園などの歴史・文化観光拠点を中心として、官民連携により民間事業者の経験やノウハウに基づいた、イルミネーションやガイドツアー、生活文化展などの定期的な賑わいイベント開催により、市民を含めた来街者の回遊性や滞留性の確保を図る。また、消費や飲食購買の意欲を活性化させるとともに空き店舗や空き家の解消に努めることなどにより、中心市街地の活性化を図り、持続可能なまちづくりに取り組む ○(株)大分まちなか倶楽部などでまちづくりに携わる「ひと」と連携し、まちづくりの担い手を育成することや、大友氏遺跡の観光ガイドの育成を行うことにより、幅広い世代で賑わう持続可能なまちづくりを目指し、魅力あるまちなか商業拠点の形成を図る ○整備した公共空間における公物管理の権限を民間に付与することで、維持管理費の低減を図ることを検討する</p>	

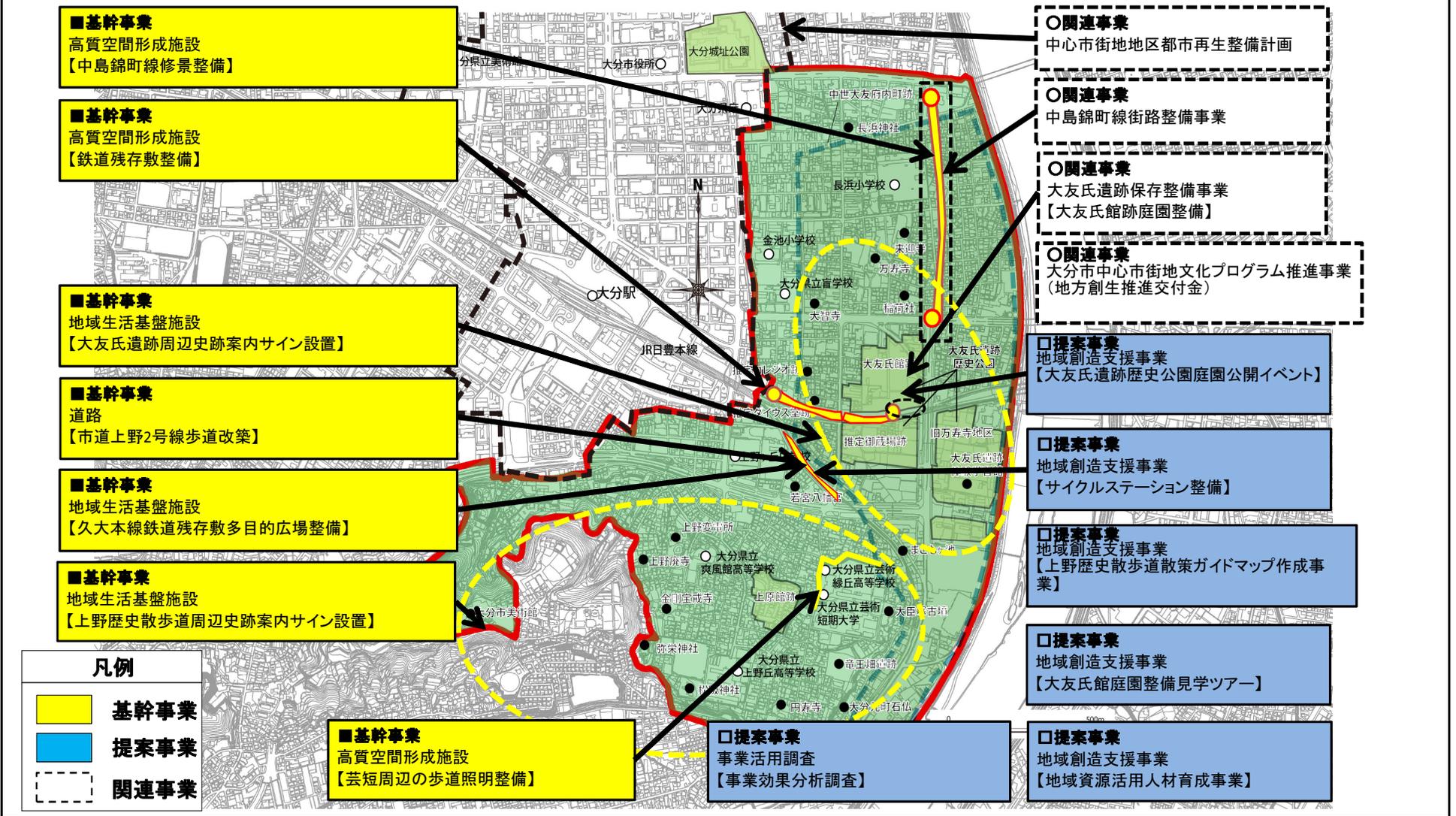
都市再生整備計画の区域

大友氏遺跡歴史公園周辺地区(大分県大分市)	面積 239.5 ha	区域 長浜町1～3丁目、錦町1～3丁目、金池町3～5丁目、大手町の一部、顕徳町1～3丁目、大字大分の一部、六坊北町、六坊南町、元町、上野丘東、上野町、上野丘西、上野丘1～2丁目、金池南2丁目の一部、桜ヶ丘の一部、三芳の一部
-----------------------	----------------	--



大友氏遺跡歴史公園周辺地区(大分県大分市)整備方針概要図

目標	■大目標 歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり □目標① 大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う □目標② 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する □目標③ 地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、インバウンドに対応した歴史文化資源の顕在化を行うことで内外の認知度向上を図る	代表的な指標	大友氏遺跡への来場者数 (人)	9,149人 (H26年度) → 18,450人 (H32年度)
			大友氏遺跡歴史公園周辺地区観光ガイド依頼件数 (件)	20件 (H27年度) → 100件 (H32年度)
			大友氏に関する認知度 (%)	44.3% (H27年度) → 60.0% (H32年度)



社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:大友氏遺跡歴史公園周辺地区 都市再生整備計画事業 事業主体名:大分市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○